

年 組 名前：

反戦、原発：「在り方」問う

坂本龍一さんは第一線で音楽活動を続けながら、3月28日に71歳で亡くなる直前まで森林保護や反戦、原発問題などさまざまな社会的課題で発言を続けた。東日本大震災後は、日本の在り方も私たちに問いかけた。

既存の知や権威を疑う態度は、音楽を学ぶ中で培われた。10代の頃、20世紀の西洋音楽の礎を築いたドビュッシーがアジアの音楽に影響されたことを知る。行き詰まった西洋音楽を解体しようとする音楽家としての取り組みは、1960年代後半に自身も身を投じた、学校や社会の制度の解体を目指すような学生運動の方向性とも重なる。

2001年には、拠点を置いた米ニューヨークで中枢同時テロを目の当たりに。著書「音楽は自由にする」ではテロを取り巻く状況を生み出したのは米国という「覇権国家だ」と指摘。テロ直後には仲間と呼びかけ評論集「非戦」をまとめた。

地雷廃絶が目的のチャリティー活動に共に取り組み、「非戦」にも寄稿したミュージシャンの佐野元春さん(67)は「坂本さんの精神性に多くの表現者が刺激されました。自分もその一人です」とコメントを交流サイト(SNS)に載せた。

11年の東日本大震災後は脱原発運動への関与を強め「さようなら原発」などと掲げた大規模な集会をたびたび開催した。坂本さんらと呼びかけ人となったルポライター、鎌田慧さん(84)は「福島の後に沈黙しているのは野蠻だ」という坂本さんの言葉が強く印象に残っている」と話す。

若いミュージシャンを集めた「NONUKES」と題した音楽イベントも開き、広い世代に訴えた。

今年3月、自然が広がる東京・明治神宮外苑の再開発に反対し、認可した東京都の小池百合子知事に「目の前の経済的利益のために先人が100年をかけて守り育ててきた貴重な神宮の樹々を犠牲にすべきではない」と訴える手紙を送った。

共同通信の書面インタビューで「今は音楽制作を続けるのも難しいほど気力・体力とも減衰しています」と明かした坂本さんが最後の力を振り絞ったのが、環境保護を訴える活動だった。

(2023年4月4日付 山梨日日新聞 17面)

問1 音楽家の坂本龍一が、亡くなりました。亡くなる直前まで、どのような発言を続けましたか。

.....

問2 ニューヨーク同時多発テロ事件直後に、仲間と共に出版した評論集の書名を、答えてください。

.....

問3 坂本さんは、東京都知事に手紙を送りました。何に反対し、どのように訴えた内容でしたか。

何に反対：

どのように：